

平成 25 年度教職大学院派遣研修研究報告書

派遣者番号	25K15	氏名	木下 陽子
研究主題 —副主題—	学習意欲を高める教師の関わり —数学科の授業における子供の意欲を伸ばす言葉かけ—		
所属校	荒川区立原中学校	派遣先	東京学芸大学教職大学院

項目	内容
I 研究の目的	<p>東京都教育ビジョン第3次（平成 25 年 4 月）の基本理念において、「社会全体で子供の「知」、「徳」、「体」を育み、グローバル化の進展などの変化の激しい時代における、自ら学び考え行動する力や社会の発展に貢献する力を培う。」と示されている。その中でも、23 の主要施策の第一に「基礎・基本の定着と学ぶ意欲の向上」が明記され、学習意欲の向上が重要な課題としてあげられている。平成 24 年度に東京都教育委員会が実施した「児童・生徒の学力向上を図るための調査」によると、算数・数学の授業が「楽しい」、「少し楽しい」と回答した児童・生徒の割合は、前年度に比べ増加しているものの、中学 2 年生では、数学の授業が「あまり楽しくない」、「楽しくない」と回答した生徒の割合は 32.9%であった。また、授業が「楽しい」と回答した生徒の平均正答率は 60.0%であり、「楽しくない」と回答した生徒の平均正答率は 40.7%であった。これらの結果を踏まえると、授業に対する生徒の関心を高め、意欲へとつなげていくことで、学力の向上が期待できるのではないかと考えられる。</p> <p>平成 15 年度に国立教育政策研究所が実施した教育課程実施状況調査の結果では、計算は「できる」けれども「分からない」と感じ、なぜそのようなやり方で答えを求められるのか、求め方の意味が分からないと感じている児童・生徒の割合が多い。数学の授業において、「分かった、できた」と感じる達成感や充実感を得る体験が乏しいために、授業への関心や学習意欲につながらない現状があるのではないかと考える。また、教師が生徒の実態に合わせて、探求心をくすぐるような教材を提示できているかどうかということも学習意欲を高める原因の一つと考えられる。しかし、同じ教材を用いている場合であっても、教師の提示の仕方や雰囲気によっても、生徒の学習への意欲に違いが生じている現状も見られる。</p> <p>そこで、生徒の学習意欲を高めるために必要な教師の適切な言葉・働きかけを事例研究によって明らかにし、その働きかけの意図や有効性を理解し共有できるように、授業分析方法を開発することを研究のねらいとした。</p>
II 研究の方法	<p>(i) モデル教諭 3 名の授業観察 東京教師道場において数学科の助言者を務めている、あるいは過去に務めていた 3 名の教諭を対象に授業観察を行った。3 名の教諭は数学の教材研究に精通しており、また生徒とのやりとりを通して学習指導を効果的に進めている。これらの教諭の授業は、学習意欲を高める関わりとしての「模範となる授業」と捉えた。授業観察の際に、視点を 10 項目設定し、授業記録をとった。</p> <p>(ii) 学習意欲を測る質問アンケートの実施（モデル教諭 2 名の担当生徒対象） 栃木県総合教育センター（平成 23 年）の「学習に関するアンケート項目」を参考にした 15 項目と「先生に言われてうれしかった、又はやる気が出た言葉」を記述する形式のアンケートを作成。生徒の学習意欲を把握する材料とし、2 校の生徒を対象に実施。</p> <p>(iii) 逐語記録の分析、分類</p> <p>(iv) 学習意欲を高める教師の言葉かけに関する「授業観察シート」の開発</p>
III 研究の結果	<p>(i) モデル教諭の授業観察を通して</p> <p>① 授業観察記録</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【授業観察の 10 の視点】</p> <p>(1) 生徒の発言に対して承認する言葉 (2) 生徒の発言に対して称賛する言葉 (3) 全体にかける言葉 (4) 作業等の指示を出すときの生徒に選択させる言葉 (5) 板書等の指示を出すときの言葉 (6) 評価、コメント記入の仕方 (7) 学習を深めるポイントとなった言葉 (8) 生徒の発言に対して繰り返し投げ掛ける言葉 (9) 生徒の思考を見取るための言葉 (10) 思考を広げるための繰り返しの言葉</p> </div>

② 逐語記録分析・分類

授業の逐語記録より、それぞれの生徒の状態に応じた教師の効果的な言葉・働きかけを抽出し、「意欲のみなもと」を高め、「学習行動」を強化する働きかけであると思われる言葉・働きかけを分析した。

③ モデル教諭：授業観察者の考察

モデル教員の授業では、「他者受容感」に効果的だと思われる言葉かけが多い。また、導入時には、生徒が「自己有能感」を感じられるように、教師が期待する言葉を意識的に用いて、本時の学習内容に取り組みめるように配慮している。

自分で課題を解決し、学習を進めることが難しい生徒が多い集団では、「自己有能感」を高める言葉かけをし、その後「挑戦」を強化する働きかけを多く繰り返す。また、生徒の学習状況、性格等を踏まえた上で、一人一人の生徒が意欲的に学習に取り組めるような言葉をタイミングよく返している。

モデル教諭の授業は、特に教師の働きかけ、声かけの回数が多く、学力は平均値を下回る生徒集団であるため、累乗を学ぶときには「これすごく便利な書き方だと思わない。9を2回かけているってことが分かる書き方なの。」という言葉をかけ、意図的に学習の必要感を感じさせている。また数字や書き方を生徒に選択させることで、「自分で決定して学習している」という意識をもたせ、意欲的に取り組もうとする姿勢を強化している。「中学生になったってことは、自分で疑問に思ったことは調べてみる。それも一つの勉強法」のように、生徒に誇りをもたせ、学習意欲を刺激している。

(ii) 学習意欲を測る質問アンケート結果

モデル教員が数学の授業を担当する生徒それぞれ約100名を対象に、学習意欲を測る質問アンケートを実施し、結果から考察した。

(iii) 授業観察の視点の再考察

授業観察時に記録すると「(3) 全体にかける言葉」の分類が曖昧であり、他項目に重なる表現だと感じ、削除した。また「(4) 作業等の指示を出すときの生徒に選択させる言葉」と「(5) 板書等の指示を出すときの言葉」をまとめ、「生徒に選択させる言葉」とした。「(6) 評価、コメントの記入の仕方」の項目は、教師が生徒の学習内容に対する発言や反応をどのように受け答えしているかを見る項目であったので、言葉を簡単にし「アイデアを評価する言葉」と変更した。(7)～(10)は、観察後により具体的に教師の働きかけの意図が分かるように分類し、「学習を促し、勇気付ける」「学習に挑戦するように促す」「学習内容を深めさせる」「生徒の思考を見る」の4つの言葉に変更した。

変更後【授業観察の8の視点】

- (i) 生徒の発言を承認する言葉
- (ii) 生徒の発言を称賛する言葉
- (iii) アイデアを評価する言葉
- (iv) 生徒に選択させる言葉
- (v) 学習を促し、勇気付ける言葉
- (vi) 学習に挑戦するよう促す言葉
- (vii) 学習内容を深めさせる言葉
- (viii) 生徒の思考を見るための言葉

IV 考察

(1) まとめ

授業者が「学習意欲を高める働き」を意識しながら授業をするだけでなく、授業観察者としても同じように視点を共有して授業観察することで、授業者と授業観察者の双方が共通の視点で授業分析することができる。学習意欲を高めるための授業を展開するために、「授業観察の視点シート」を提案したい。また、授業参観後に、授業者と授業観察者が共通の視点で、生徒の変容を基に話し合い、授業改善の一つの資料として活用したい。

(2) 課題

今回作成した授業観察シートでは、ある程度、数学に関する知識や指導経験の豊富な教員でないと活用できないと考えられる。言葉掛けを分類しながら、記録を取ることが難しい若手教諭等にも活用できるようなシートに改良していくことが今後の課題である。また、授業観察の実践を重ねて、八つの視点を再検討していきたいと考えている。